令和５年度　東条学園小中学校　学校評価（年間）

４・・よくあてはまる　３・・ややあてはまる　２・・あまりあてはまらない　１・・まったくあてはまらない　※（　）は昨年度

評価の観点	評価項目		実践目標と成果	評価 教職員	評価 児童生徒	評価 保護者
生きてはたらく学びの向上を図る	基礎基本の確実な定着・学びに向かう力	成果	各学年層、各教科間で児童生徒の理解を情報共有して個に配慮した授業の工夫ができた。	3.2 (3.3)	3.5 (3.5)	3.5 (3.4)
		課題と方策	基礎基本の学力獲得に向けた授業を「他者と関わる」「協同的」に実施する工夫を検討する。			
	思考力・判断力・表現力の育成	成果	研究授業及び事後研究会を実践し、授業者が意図した振り返りができているかに注目した授業改善ができた。	3.1 (3.1)	3.5 (3.6)	3.4 (3.4)
		課題と方策	「他者と関わる」ことや「協同的」に進められた内容が表現されるように授業の作り方や振り返り方法を検討する。			
	ICT活用 指導力の向上	成果	タブレットの利点を活かし、意見の共有化や視覚的支援を図った授業づくりに取り組むことができた。	3.3 (3.1)	3.5 (3.6)	3.3 (3.4)
		課題と方策	デジタル教科書やアプリの活用など、深い学びにつながる活用方法を考えられるように、支援していく。			
他者とつながる力を育成する	学級集団づくりの充実	成果	異学年での清掃や給食、縦割り班遊びなど、学年の枠を超えた関りを持つ機会を設けることができた。	3.4 (3.5)	3.5	3.5
		課題と方策	異学年との交流の場を増やすとともに、児童生徒自らが関わり合おうとするような取り組みを増やしていく。			
	体験活動等の充実	成果	児童生徒が体育大会や学園祭で企画・運営を担うなど、それぞれの役割に対し責任を持って活動できた。	3.7 (3.5)	3.6 (3.7)	3.6 (3.7)
		課題と方策	ステージや学年毎に、学校生活の中でも児童生徒が自主的に活動できるような機会を作っていく。			
思いやりや寛容の心持ち、互いに高め合う力を育成する	道徳教育の充実	成果	カリキュラムに基づき、道徳の授業に取り組めた。また、授業内容や児童生徒の様子を学年で共有するできた。	3.2 (3.0)	3.5 (3.5)	3.4 (3.5)
		課題と方策	多様な考えを出し合い議論する道徳の授業づくりを進めるために、互いに授業を見合ったりする機会を設ける。			
	平和学習	成果	学園祭では9年生による平和学習の発表を、また9･6年生とで「つながる平和学習」を実施した。	3.5 (3.7)	3.5 (3.4)	3.5 (3.6)
		課題と方策	成果物や発表ができる流れをつくり、発達段階に応じた平和学習積み上げていく必要がある。			
健康な心身を育て、安全に対する意識を高める	健康な心身の育成	成果	問題が大きくなる前に事前に相談を受けることで適切な指導にあたることができた。	3.4 (3.3)	3.4 (3.7)	3.3 (3.6)
		課題と方策	日頃からの教員の観察や声かけ、教員間での情報共有を丁寧に行うようする。			
	健康や体力の増進	成果	体力要素の改善に向けて上体起こし、腕立て、馬跳びを行うなど、継続的に取り組むことができた。	3.4 (3.2)	3.6 (3.4)	3.4 (3.3)
		課題と方策	個別の課題を解決するために問題意識を持って取り組み、個に合う方法を模索していく。			
	危機管理の充実	成果	見守り隊の当番活動が確立され、児童生徒がより安全に登校できるようになった。	3.4 (3.4)	3.6 (3.6)	3.4 (3.5)
		課題と方策	児童の安全意識を高め、しっかり集団下校ができるよう、繰り返し呼びかけていく。			
心通う集団づくり、積極的な生徒指導を推進する	自己管理能力の向上	成果	授業の始まりの時間を守ろうと、児童生徒間で声を掛け合う様子が見られた。	3.0 (3.4)	3.6 (3.4)	3.5 (3.3)
		課題と方策	清掃の始まる時間に遅れてしまう児童生徒が見られるため、時間を守って開始する意識をもたせる。			
	協働した指導や支援体制の充実	成果	SCによるストレスマネジメント教育を実施し、子どもたちが、相談しやすい環境を作ることができた。	3.5 (3.0)	3.5 (3.5)	3.3 (3.6)
		課題と方策	学園生の心の問題の情報共有をするとともに、「生きる力」を育てる指導や支援体制を整えていく。			
一人一人の教育的ニーズに応じた適切な特別支援教育を推進する	適切な教育課程の編成	成果	個別の教育支援計画を作成し、本人・保護者の願いを中心に据えた支援を進めることができた。	3.4 (3.3)	3.5 (3.6)	3.4 (3.3)
		課題と方策	児童生徒の理解に努め、職員で支援の手立てを共通理解し、連携して支援に当たれるようにする。			
	切れ目のない生徒支援	成果	指導内容を生かした切れ目のない児童生徒支援・家庭支援をきめ細かく行うことができた。	3.6 (3.3)	3.4 (3.6)	3.3 (3.3)
		課題と方策	前期と後期の連携を図り、教育課程の理解や児童生徒間の交流を実施し、相互理解を深めた。			
地域に開かれた学校づくりを推進する	地域との連携	成果	学校運営協議会、地域学校協働本部と連携して、PTCA組織づくり等、学校と地域が一体となり教育活動が進められた。	3.6 (3.8)	3.4 (3.3)	3.5 (3.5)
		課題と方策	学校運営協議会、地域学校協働本部を中心に、学校・地域との連携・協力を進め学校運営に必要な支援に取り組む。			
	地域との協働	成果	地域学校協働活動推進委員がリーダーシップを発揮し、体験学習等、地域を巻き込んだ活動が実施できた。	3.6 (3.8)	3.5 (3.3)	3.4 (3.5)
		課題と方策	地域学校協働活動推進委員を中心に学校、地域が協議を進め多様な学校支援を進める。			
	地域への発信	成果	新たに「戸坂の花文字」「地域へのコスモスの種の配布」等新たな取り組みができた。	3.7 (3.8)		3.5 (3.5)
		課題と方策	PTCA活動に関する情報を発信し、地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりを推進する。			
教職員が心身ともに健康で、働きやすい職場環境づくりを進める	児童生徒と向き合う時間の確保	成果	tetoru･ICTを活用した地域・保護者・教職員の連絡系統を確立することで、時間を確保できるようになった。	3.2 (3.0)		
		課題と方策	全教職員が活用していけるように、ICT技能の向上を図るとともに、日々の活用を推進する。			
	ﾜｰｸ･ﾗｲﾌ･ﾊﾞﾗﾝｽの保持	成果	ノー部活DAYと定時退勤日を合わせることで、教職員の意識は高まった。普段の日も、年休等の取得が促進された。	3.1 (3.4)		
		課題と方策	定時退勤日(水曜日)17:00を超えた教職員は各自で別日を設定するように一覧表を作成する等新たな手立てを工夫する。			
	教職員相互の協力・協働	成果	学校行事等を全教職員が協力して実行していく中で、教職員がより協力・協働して学校運営をしていく気運が高まった。	3.5 (3.6)		
		課題と方策	協力・協働して行事を計画・実行し、新しい挑戦を進め、その気運を高めるため、自発的なコミュニケーションを図る。			

【児童生徒・保護者への質問項目まとめ】

	番号	質　　問	児童生徒	保護者
児童生徒活動	13	自分は、明るくさわやかなあいさつをしている。	3.3 (3.2)	3.0 (3.0)
	14	自分は、友達を気遣い、思いやりを持って行動している。	3.6 (3.6)	3.3 (3.4)
	15	自分は、学校や社会のきまりを守っている。	3.5 (3.6)	3.3 (3.4)
	16	自分は、好ましい友達関係があり，楽しく登校している。	3.6 (3.7)	3.4 (3.5)
	17	自分は、意欲的に学習に取り組んでいる。	3.3 (3.2)	3.0 (3.0)
	18	自分は、先生や友達と上手くコミュニケーションをとっている。	3.5 (3.5)	3.3 (3.2)
家庭生活	19	家庭では、あいさつや生活態度などについて教えてくれる。	3.5 (3.5)	3.3 (3.3)
	20	家庭では、学校の話をよくしている。	3.3 (3.3)	3.1 (3.3)
	21	地域の人は、地域全体の子どもに関心を持っていてくれる。	3.5 (3.4)	3.0 (3.0)
	22	地域と家庭は、協力して子どもを育てようとしてくれる。	3.6 (3.6)	3.0 (2.9)

（　）内は昨年度の数値